社会経済史学会第二九回大会

安岡重明

社会経済史学会第二九回大会は、五月二十日から二十三日まで、当番校中央大学で行なわれた。自由論題報告は、日本史・西洋史・東洋史の三部門にわけてなされた。

第一日　五月二十日

第一部　日本史部会　午前九時半より

(1) 班田収授法における公田と官田と私田について
東北大学　曽我部静雄

(2) 伊勢商人の研究—伊勢国射和「富山家」の場合—
開成高等学校　吉永昭

(3) 旗本財政をめぐる一、二の問題
千葉県史料編纂員　川村優

(4) 幕末・明治期北毛蚕糸業の展開と地主制
東京教育大学　藤井光男

(5) 地租改正における地価算定
岡山関西高校　太田健一

(6) 工芸作物転換と農業経営の動向—栃木県下の事例—
東京大学　三和良一

(7) 明治中期における商品生産の展開—山梨県製糸業興隆の基礎構造について—
中央大学　北条浩

(8) 民営石川島造船所の成立と展開
東京大学　寺谷武明

第二部　西洋史部会　午前九時半より

(1) 都市領主制の構造—ドイツ中世都市成立史の一論点—
法政大学　酒井昌美

(2) 中世後期東プロイセンの国制について
一橋大学　阿部謹也

(3) 分益小作制についての一考察
慶応義塾大学　渡辺国広

(4) ユンカー経営と農村共同体
中央大学　高橋清四郎

(5) Tench coxe の工業育成論
東京大学　宮野啓一

(6) イギリス産業革命期の農業問題
東京大学　椎名重明

(7) アメリカにおける経営史学の現状
東京大学　中川敬一郎

第三部　東洋史部会　午後一時より

(1) 中国法史上における所有と占有
東京大学　仁井田陞

(2) 高麗王室の荘園
都立大学　旗田巍

(3) 一田両主制と頃田抗租
横浜市立大学　田中正俊

(4) 清代銅鉛工業の発展
桃山学院大学　里井彦七郎

私のきいた報告は、日本史部会の(1)(2)(3)(4)(5)と西洋史部会の(6)(7)であった。いつも時間の運営がまずいため、ほかの部会に出ようとして時間割をみてでかけても、前の報告がえんえんと続いているといった状態で、有効に諸報告をきくことができない。それは主として未整理のまま報告する報告者の責任であるが、会の方でもっと厳重な方法を考えてほしい。興味深くきいたのは、吉永氏の報告と中川氏の報告であった。興味の範囲がせまいので、ほかにもよい報告があったかも知れないが、充分評価できない。吉永氏の報告は、限られた史料を巧みに処理し、伊勢商人の江戸前期の経営に照明をあてたものである。そのほか太田氏の報告は、限定されたよい問題であったが、結論がややあいまいであった。中川氏の報告は、アメリカにおけるBusiness History と Entrepreneurial History の二つの流れ、その問題点を指摘したもので、ようやく芽ばえてきた日本における経営史研究にも参照すべき学会動向であった。

第二日　五月二十一日

共通論題［幕末・明治前期における産業史の諸問題］

問題提起　　慶応義塾大学　島崎隆夫

Ⅰ　明治初年の足利地方における織物業　　早稲田大学　工藤恭吉

Ⅱ　桐生絹織物における生産構造の展開過程　　日本大学　木村隆俊

Ⅲ　幕末・明治前期における八王寺周辺の産業　　早稲田大学　正田健一郎

総括　　横浜市立大学　服部一馬

共通論題といっても、北関東機業地を研究した個別研究に問題提起をつけくわえただけといった感じが強かった。途中で中座してⅡの後半、Ⅲをきいていないので断言できないが、きいた範囲では、毎年きまったように共通論題を作らなくてもよかろうと思った。適当な論題と報告者のない場合は、自由論題だけで二日間通してもよい。学会の運営にあたっては、形式主義に落ち入らないようにして実質本意に考えてほしい。

第三日には見学があった。そのほか第一日の午後六時半より公開講演があった。開会の辞　慶大野村兼太郎、近畿と北海道　北大高倉新一郎、部品互換式大量生産の創始者イーライ・ホィトニー　京大堀江保蔵、閉会の辞　中央大学五十嵐喬の諸氏であった。